

## 香川レインボー映画祭:性的少数者の日常知って 高校生以下入場無料に 18日 /香川

毎日新聞 2015年10月14日 地方版

性的少数者（LGBT）と性の多様性をテーマにした映画を上映する「第11回香川レインボー映画祭」（同実行委主催）が18日、高松市サンポートのe-とぴあ・かがわで開催される。今年4月に国が教育現場での性的少数者の子供への配慮を求める通知を出したことを機に、実行委は「小中高校生を含む、いろんな人に性的少数者の日常をまず知ってほしい」と入場者数の減少で運営に苦慮する中、今年初めて高校生以下を入場無料にした。【伊藤遥】

香川レインボー映画祭は、高松を拠点に性的少数者が中心となって交流・啓発活動を行う団体「PROUD」（プライド）などが10年前から開催。ドキュメンタリーや海外のマイナー作品など、一般の劇場では見られない映画を上映したり、関係者のトークショーを催すなど、貴重な情報発信・交流の場として機能してきた。しかし約500人が来場した初回以降、徐々に来場者数は減少。台風の影響を受けた昨年は200人を割って初めて赤字となった。

運営を立て直すため、今年からクラウドファンディングで寄付を募り始めた。一方で、国が性的少数者の子供らについて、全国の小中高校などに配慮を求める通知を出したことから、プライド代表の藤田博美さん（44）らは「この動きに協力したい」と、高校生以下は無料にすることを決めた。同様の映画祭は東京や大阪、京都、青森、名古屋、愛媛などで開催。しかし、学生割引を適用する映画祭はあるが、全面無料化は異例だ。

性的少数者の多くが思春期には自覚しているとみられるが、プライドによると、これまでの映画祭では、高校生以下の姿はほとんどなかったという。

岡山大病院ジェンダークリニックの医師で、GID（性同一性障害）学会理事長の中塚幹也教授（54）は「性的少数者について、適切な情報を得るために、テレビや講演会などいろんなチャンネルがあることが大事だ。学校外でも配慮の動きが広まることは望ましい。映画を通して物事を身近に実感できるだろうし、会場で当事者に会う機会にもなる」と評価している。

今年のレインボー映画祭では、ロンドンを舞台にした感動作『追憶と、踊りながら』や、県内で同居する男性パートナー同士の日常を追った短編ドキュメンタリー『ある家族の肖像』のほか、コメディ、ヒューマン映画など全5作品が上映される。

問い合わせはメールで実行委（[info@kagawa-rff.org](mailto:info@kagawa-rff.org)）まで。